

平成28年度（平成29年3月31日現在）貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
現金及び預貯金	8,351	保険契約準備金	20,642
現 金	1	支 払 備 金	5,074
預 貯 金	8,349	責 任 準 備 金	15,567
金 銭 の 信 託	200	そ の 他 負 債	2,406
有 価 証 券	67,045	共 同 保 険 借	132
国 債	57,695	再 保 険 借	4
株 式	2	外 国 再 保 険 借	123
そ の 他 の 証 券	9,347	未 払 法 人 税 等	346
貸 付 金	0	預 り 金	82
保 険 約 款 貸 付	0	前 受 収 益	5
有 形 固 定 資 産	3,554	未 払 金	851
土 地	2,593	仮 受 金	860
建 物	889	賞 与 引 当 金	120
その他の有形固定資産	70	特 別 法 上 の 準 備 金	370
無 形 固 定 資 産	1,618	価 格 変 動 準 備 金	370
ソ フ ト ウ ェ ア	1,254		
その他の無形固定資産	363	負 債 の 部 合 計	23,539
そ の 他 資 産	2,213	(純 資 産 の 部)	
代 理 店 貸	1,564	資 本 金	52,000
共 同 保 険 貸	74	資 本 剰 余 金	1,455
再 保 険 貸	87	資 本 準 備 金	1,455
外 国 再 保 険 貸	46	利 益 剰 余 金	5,125
未 収 金	15	利 益 準 備 金	2,680
未 収 収 益	110	そ の 他 利 益 剰 余 金	2,444
預 託 金	2	繰 越 利 益 剰 余 金	2,444
地 震 保 険 預 託 金	54	株 主 資 本 合 計	58,580
仮 払 金	257	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	932
繰 延 税 金 資 産	68	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	932
貸 倒 引 当 金	△0		
		純 資 産 の 部 合 計	59,512
資 産 の 部 合 計	83,052	負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	83,052

(注) 1. 会計方針に関する事項は以下のとおりであります。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法は次のとおりであります。

① 満期保有目的の債券の評価は、償却原価法により行なっております。

② その他有価証券のうち時価のあるものの評価は、期末日の市場価格等に基づく時価法により行なっております。なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、また、売却原価の算定は移動平均法に基づいております。

③ その他有価証券のうち時価のないものの評価は、移動平均法に基づく原価法により行なっております。

(2) 金銭の信託の評価基準及び評価方法は、時価法によっております。

(3) 有形固定資産の減価償却は定率法により行なっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物付属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物付属設備については、定額法により行なっております。

(4) 無形固定資産に計上している自社利用のソフトウェアの減価償却は、利用可能期間に基づく定額法によっております。

(5) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算は、外貨建取引等会計処理基準に準拠して行なっております。

(6) 貸倒引当金は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、資産の自己査定基準及び償却・引当基準に基づき、次のとおり計上しております。

破産、特別清算、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している債務者に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額等を控除し、その残額を引き当てております。

今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を引き当てております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を引き当てております。

また、全ての債権は資産の自己査定基準に基づき、勘定科目主管部が資産査定を実施し、当該部から独立した業務監査部が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行なっております。

(7) 賞与引当金は、従業員の賞与に充てるため、支給見込額を基準に計上しております。

(8) 価格変動準備金は株式等の価格変動による損失に備えるため、保険業法第115条の規定に基づき計上しております。

(9) 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。ただし、損害調査費、営業費及び一般管理費等の費用は税込方式によっております。

なお、資産に係る控除対象外消費税等は仮払金に計上し、5年間で均等償却を行なっております。

2. 会計方針の変更等に関する事項

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物付属設備に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、これによる計算書類への影響は軽微であります。

3. (1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社は、資産の運用にあたり、安全性・健全性・流動性に留意し、中長期的に安定収益を確保することを基本方針としております。運用資産は主に有価証券であり、国内の公社債による運用を基本としつつ、運用収益向上を企図して投資信託による運用も行なっております。

② 金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する主な金融資産は、国内の公社債を中心とする有価証券であり、満期保有目的の債券及びその他有価証券として保有しております。これらは、金利リスクを中心とした市場関連リスク等に晒されております。投資信託は金利、株価、為替などの市場関連リスク及び発行体の信用リスクに晒されております。また、未払金その他の金融負債の支払など資金管理に関して流動性リスクに晒されております。なお、当社はデリバティブ取引を行っておりません。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

(i) 市場関連リスクの管理

当社は、市場関連リスク管理統括部署をリスク管理・コンプライアンス部と定め市場関連リスク管理を行なうとともに、リスク管理にかかわる審議等を行なうリスク管理・コンプライアンス委員会に取組状況を報告しております。

市場関連リスクの管理にあたっては、損失限度枠等、リスク管理上必要と判断される限度枠を設定し、また、定期的に見直しを行なっております。さらに、当社ではVaR手法によるリスク量の計測に加えて、通常の予測を超えた急激な市場変動が発生する事態も想定して、ストレステストを定期的に行なっております。

(ii) 信用リスクの管理

当社は、信用リスク管理統括部署をリスク管理・コンプライアンス部と定め信用リスク管理を行なうとともに、リスク管理・コンプライアンス委員会に取組状況を報告しております。信用リスクの管理にあたっては、保有資産全体の安全性・健全性に鑑み、リスクが特定企業・グループ等に集中することのないよう運用先の分散を図るとともに、特に一定額以上の投融資や重要度の高い案件については、経営会議等で検討のうえ、決裁する体制となっております。

(iii) 資金調達に係る流動性リスクの管理

当社は、流動性リスク管理統括部署をリスク管理・コンプライアンス部と定め流動性リスク管理を行なうとともに、リスク管理・コンプライアンス委員会に取組状況を報告しております。流動性リスクの管理にあたっては、低流動性資産の運用制限、大口資金移動の事前把握等により、手元流動性水準を的確にコントロールしております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成29年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(注2)。

(単位：百万円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
① 現金及び預貯金	8,351	8,351	—
② 金銭の信託	200	200	—
③ 有価証券			
満期保有目的の債券	18,897	20,607	1,709
其他有価証券	48,145	48,145	—
④ 代理店貸	1,564	1,564	—
資産計	77,160	78,869	1,709

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券取引に関する事項

資産

① 現金及び預貯金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

② 金銭の信託

預金と同様の性格を有する合同運用の金銭信託は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

③ 有価証券

これらの時価について、債券は期末日の市場価格によっております。投資信託については、取引金融機関から提示された基準価額によっております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項は以下のとおりであります。

- (i) 満期保有目的の債券において、種類ごとの貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、当事業年度中に売却した満期保有目的の債券はありません。

(単位：百万円)

	種類	貸借対照表 計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	公社債	17,963	19,690	1,726
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	公社債	934	917	△17
合計		18,897	20,607	1,709

- (ii) その他有価証券の当事業年度中の売却額は1,268百万円であり、売却益の合計額は68百万円であります。また、種類ごとの貸借対照表計上額、取得原価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	種類	貸借対照表 計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	公社債	38,798	37,751	1,046
	株式	—	—	—
	その他	5,349	5,100	249
	小計	44,147	42,851	1,296
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	公社債	—	—	—
	株式	—	—	—
	その他	4,198	4,200	△1
	小計	4,198	4,200	△1
合計		48,345	47,051	1,294

(注) 1. 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券は、上表に含めておりません。

2. 上記の表中にある「その他」には、金銭の信託が含まれております。

- (iii) 上記の表中にある「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。当事業年度において、減損処理を行なった有価証券はありません。

- (iv) 当事業年度中において、保有目的が変更となった有価証券はありません。

④ 代理店貸

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は、次のとおりであり、「資産

- ③ 有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

非上場株式(貸借対照表計上額2百万円)は、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることができないことから時価開示の対象とはしておりません。

- (注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預貯金				
預貯金	8,349	—	—	—
金銭の信託	200	—	—	—
有価証券				
満期保有目的の債券				
国債	—	1,708	9,038	8,151
その他有価証券のうち満期があるもの				
国債	8,156	20,140	10,501	—
代理店貸	1,564	—	—	—
合計	18,270	21,849	19,539	8,151

4. 賃貸等不動産の状況に関する事項及び賃貸等不動産の時価に関する事項

当社では、東京都にある本社ビルにおいて一部賃貸をしており、当期末における当該賃貸等不動産の貸借対照表価額は1,016百万円、時価は1,386百万円であります。なお、時価の算定にあたっては、社外の不動産鑑定士による鑑定評価によっております。ただし、直近の評価時点から一定の評価額や適切に市場価額を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていないため、当該評価額や指標を用いて調整した価額によっております。

5. 有形固定資産の減価償却累計額は2,067百万円であります。

6. 関係会社に対する金銭債権の総額は2百万円、金銭債務の総額は780百万円であります。

7. 繰延税金資産の総額は3,363百万円、繰延税金負債の総額は628百万円であります。また、繰延税金資産から評価性引当額として控除した額は2,666百万円であります。

繰延税金資産の発生の主な原因別内訳は、責任準備金2,773百万円、支払備金263百万円及びソフトウェア174百万円であります。

繰延税金負債の発生の主な原因別内訳は、その他有価証券に係る評価差額金362百万円、自動車損害賠償責任保険にかかる責任準備金266百万円であります。

8. (1) 支払備金の内訳は次のとおりであります。

支払備金（出再支払備金控除前、(ロ)に掲げる保険を除く）	5,573百万円
同上にかかる出再支払備金	851百万円
<hr/>	
差引（イ）	4,722百万円
地震保険及び自動車損害賠償責任保険にかかる支払備金（ロ）	352百万円
<hr/>	
計（イ+ロ）	5,074百万円

(2) 責任準備金の内訳は次のとおりであります。

普通責任準備金（出再責任準備金控除前）	6,061百万円
同上にかかる出再責任準備金	842百万円
<hr/>	
差引（イ）	5,218百万円
その他の責任準備金（ロ）	10,349百万円
<hr/>	
計（イ+ロ）	15,567百万円

9. 1株当たりの純資産額は148,782円08銭であります。

算定上の基礎である純資産額は59,512百万円、普通株式の期末株式数は400千株であります。

10. 事業年度末日後に、翌事業年度以降の財産又は損益に重要な影響を及ぼす事象は生じておりません。

11. 金額は記載単位未満を切り捨てて表示しております。

平成28年度

〔平成28年4月1日から
平成29年3月31日まで〕

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	金 額
経常収益	16,415
保険引受収益	15,729
正味収入保険料	15,259
収入積立保険料	1
積立保険料等運用益	29
支払備入金戻入額	439
資産運用収益	681
利息及び配当金収入	641
有価証券売却益	68
積立保険料等運用益振替	△29
その他の経常収益	4
経常費用	13,835
保険引受費用	9,595
正味支払保険金	5,346
損害調査費	790
諸手数料及び集金費	3,090
満期返戻金	7
責任準備金繰入額	359
為替差損	0
営業費及び一般管理費	4,238
その他の経常費用	0
その他の経常費用	0
経常利益	2,580
特別損失	256
固定資産処分損	0
特別法上の準備金繰入額	256
価格変動準備金	256
税引前当期純利益	2,323
法人税及び住民税	670
法人税等調整額	208
法人税等合計	878
当期純利益	1,444

(注) 1. 関係会社との取引による収益総額は125百万円、費用総額は1,169百万円であります。

2. (1) 正味収入保険料の内訳は次のとおりであります。

収入保険料	16,515百万円
支払再保険料	1,256百万円
差引	15,259百万円

(2) 正味支払保険金の内訳は次のとおりであります。

支払保険金	5,559百万円
回収再保険金	212百万円
差引	5,346百万円

(3) 諸手数料及び集金費の内訳は次のとおりであります。

支払諸手数料及び集金費	3,333百万円
出再保険手数料	242百万円
差引	3,090百万円

(4) 支払備金繰入額(△は支払備金戻入額)の内訳は次のとおりであります。

支払備金繰入額(出再支払備金控除前、(ロ)に掲げる保険を除く)	△787百万円
同上にかかる出再支払備金繰入額	△381百万円
差引(イ)	△406百万円
地震保険及び自動車損害賠償責任保険にかかる支払備金繰入額(ロ)	△33百万円
計(イ+ロ)	△439百万円

(5) 責任準備金繰入額(△は責任準備金戻入額)の内訳は次のとおりであります。

普通責任準備金繰入額(出再責任準備金控除前)	△189百万円
同上にかかる出再責任準備金繰入額	△123百万円
差引(イ)	△65百万円
その他の責任準備金繰入額(ロ)	424百万円
計(イ+ロ)	359百万円

(6) 利息及び配当金収入の内訳は次のとおりであります。

預貯金利息	0百万円
有価証券利息・配当金	563百万円
貸付金利息	0百万円
不動産賃貸料	78百万円
その他利息・配当金	0百万円
計	641百万円

3. 損害調査費、営業費及び一般管理費として計上した退職給付費用は確定拠出年金の拠出額130万円及び前払退職金41百万円であります。

4. 1株当たりの当期純利益金額は3,611円46銭であります。

算定上の基礎である当期純利益金額及び普通株式に係る当期純利益金額は1,444百万円、普通株式の期中平均株式数は400千株であります。

潜在株式調整後1株当たりの当期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. 金額は記載単位未満を切り捨てて表示しております。